

式辞

列島に大雪被害をもたらした大寒波もおさまり、穏やかな春の息吹きを感じられる時が増えてまいったなかでのなごり雪、今日の旅立ちや別れを惜しむかのようです。本日、ご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、茨城県立下館第一高等学校第一〇一回の卒業式を厳粛かつ盛大に挙行できますことを、心から嬉しく思います。本校全教職員を代表し私からお祝いの言葉を述べさせていただきます。ただ今卒業証書を授与された二四〇名の、明るく、素直で、頑張り屋で、素敵に、立派に成長された生徒の皆さん、卒業おめでとう！

皆さんが入学した令和四年四月は新型コロナウイルス感染症の影響が社会の至る所に顕在した中でした。人類の英知を結集させパンデミックを乗り越え、五類感染症への移行で平常化した社会は、技術進歩やワークライフの変化が進み、世界経済は堰を切ったように動き出しました。

これから歩を進めていく社会はAIやデジタル技術の急激な進歩による情報氾濫と急速な生活様式の変化、気候変動や国家間摩擦など対応や課題の山積、予測困難な時代になると言われています。

しかしどんな時代になろうとも「人として」、人と繋がり、多様性を尊重し、協働して、困難に立ち向かい、お互いを認め合いながら、正しいものだけを見つめ、共に成長していくことが求められ、主体的に行動できるかがカギになると考えます。この下館一高での学びや生活ではそんな経験と仲間を得たはずです。それを「かけがえのない財産」と呼ぶのだと思います。自信を持って夢に向かって進んでください。

進む道がわからなくなったときは、一度後ろ、過去を振り返ってみましょう。今が山の中腹であったなら林の中で行く先が見えていないだけかもしれません。これまで進んできた道の方角がこれから歩むべき方向、未来を指し示してくれます。振り返って見た道は、迷いで曲がりくねっていたり、友人が駆け寄って支えてくれた跡だったり、転んでから奮起して歩み始めた場所であったりと、皆さん自身の歴史を教えてくれるはずです。さらに歩を進め頂に上がれば眼下に広がる景色に登ってきた道の全貌が見え、皆さんに力を与え、次の頂も見せてくれることでしょう。止まらずに、少しずつ、前に進めば進んだ分だけ道ができる。自分を信じて歩んでいこう。

保護者の皆様、あらためまして本日は誠にありがとうございます。生徒たちをこれまで温かく見守り、支えてこられたことに心から敬意を表しますとともに、在学中にお寄せいただきました本校へのご理解とご協力に深く感謝申し上げます。本日もご臨席いただきましたご来賓の方々とともに、今後もなお一層のご指導とご支援をいただけますようお願い申し上げます。

卒業生の皆さんの未来が、希望と喜びに満ち溢れ、幸多からんことを祈念し、式辞といたします。

令和七年三月四日

茨城県立下館第一高等学校長

木村 功